

愛隣館研修センターニュース

第75号

〒612-8141 京都市伏見区向島二ノ丸町151 2F TEL 075-621-3849 FAX 075-621-1579

E-mail : airinday@sunny.ocn.ne.jp http://www.airinkan.net 振替 01020-5-39321

編集発行所：社会福祉法人イエス団 愛隣館研修センター 発行責任者：平田 義

地域で支え合い、助け合う 向島二の丸・二の丸北あんしんネットワーク 発足

昨年12月に、「向島二の丸・二の丸北あんしんネットワーク」（以後「あんしんネットワーク」）が設立されました。設立のきっかけは、“地域の方々に、認知症に対する理解を深めていただき、地域ぐるみで「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」を目指す”「認知症講演会実行委員会」を結成したことから始まりでした。この「あんしんネットワーク」が設立するまでの経緯やこれからの活動などについてわかりやすくQ&A方式で説明させていただきます。

- Q. 認知症の講演会を行うための実行委員会が発展解消されて、この「あんしんネットワーク」が設立されたようですが、そもそも認知症の講演会を行うための実行委員会が結成されるきっかけは何だったのでしょうか？
- A. 話せば長くなるのですが、それは、向島ニュータウンで知的障がいのある娘さんとお父さんとお二人で生活をされていました。そのお父さんに認知症の症状が現れたことにより、お二人だけの生活が難しくなってきたのです。そこで、福祉事務所や障がいの者の相談支援事業所、ヘルパー事業所などが協力してお二人の生活の支援を始めたのがそもそものきっかけであります。
- Q. 認知症の父と障がいのある娘さんのご家族の生活支援を行っていたわけですね。そこでどうして認知症の講演会をやるようになったのですか？
- A. ちょっと生々しい話になるのですが、ある日、ヘルパーがお家に訪問したときに、血の付いた下着類がトイレに散乱してしまっていて、その原因を探るとどうもお父さんのお尻から出血している模様でした。
- Q. そらぁ大変だ！ヘルパーさんはどないしはったんですか？
- A. ヘルパーではどうしてもできないので、当然お父さんに病院への通院を勧めたわけですが、お父さんは頑として通院を拒否されたんです。
- Q. あらぁ、困ったもんですね。
- A. そうなんです。そこで、近くのお医者さんに来ていただいて診察をしていただいたところ、極度の貧血状態に陥っているの、早急に治療をしないと命も危ないということでした。
- Q. あらぁ、またまた大変！で、どないしました？
- A. お父さんをあの手この手を使って、近くの病院にまで連れて行き、入院をしてもらうことになったんです。
- Q. ほぅ、よかったですね。で、どうなりました？
- A. それが、その後が大変だったんです。入院はお父さんの意志ではなかったのですから、当然病院で大人しく治療を受けることなく、家に帰ろうと幾度となく暴れられて、数日後には、その病院は治療を投げ出してしまったのです。
- Q. え～、酷い病院ですね！でどうされたんですか？
- A. そうなんです。なんとしても治療を続けないと危ないということで、府立洛南病院にお願いで、緊急に入院を受け入れていただいたんです。
- Q. なかなか、認知症の講演会を行う話にはなりませんけど…
- A. 前置きが長くなりましたが、講演会を行う火付け役は、実はお父さんが入院した府立洛南病院の主治医の森俊夫 Dr.だったんです。退院前に関係機関が集まって会議を行いました。その席上で森 Dr.から、“様々な制度の利用だけでなく、民生委員をはじめ、地域ぐるみでお父さんを支えているしくみができつつあるではないか。今後、向島を“認知症の方が暮らしやすい街のモデル地区となる取り組みができないか。そのために私も一肌脱ぐよ。”とお話しされたんです。
- Q. へえ～、いい先生ですよ。そしてどうされたんですか？
- A. その言葉を真に受けて、二ノ丸民生児童委員会で認知症の講演会を行うことを提案し、地域の自治会や社会福祉協議会、地域包括支援センターなどに声かけを行い、実行委員会を立ち上げたのです。
- Q. その言い出しっぺが障がい者地域生活支援センター「あいりん」さんやったんですか？
- A. そもそもはそうなのですが、実行委員会のなかで、“認知症の方やその家族が住みよい街になることはもちろん、様々な支援を必要としている人たちが安心して暮らしやすい街にしていくための取り組みを行っていくべきではないか”と話が盛り上がり、森 Dr.による「認知症講座」開催後の会議で、「向島二の丸・二の丸北あんしんネットワーク」が設立されたのです。
- Q. なるほど。では今後「あんしんネットワーク」どのような活動をされる予定ですか？
- A. 月に一回のペースで例会を行っています。様々な情報交換を行いながら、地域の方々が参加できる講座を計画しているところです。
- Q. 何か具体的に決まっていることはありますか？
- A. 5月の末に、「支援」をテーマに、家族、事業所、地域のそれぞれの立場から、「支援があつてよかつと事例」「もっとこんな支援が必要なのでは？」「支援する中での課題」「支援が必要な方々の事例」「支援が必要とわかっていても手がだせない事例」などを話し合える集会を予定しています。是非お越し下さい。（平田）

2008 医療的ケア実践セミナー inKYOTO

去る2008年12月13日(土)14日(日)に、NPO 法人医療的ケアネットワーク主催の京都教育大学藤森キャンパスにおいて、「2008 医療的ケア実践セミナー inKYOTO」が行なわれました。今回は、NPO 法人医療的ケアおーぷんネットワーク*神奈川、NPO 法人地域ケアさぼーと研究所との共催となり、また京都市・京都市教育委員会・京都市社会福祉協議会の後援を得て「医療的ケア全国大会」としての位置づけで行なわれました。

大会は「シンポジウム」と「実践セミナー」の2本立てで実施され、初日に「全国シンポジウム」、二日目に「実践セミナー入門編」が行なわれました。

シンポジウムに先立ち、元びわこ学園園長の高谷清さんによる記念講演があり、「どんなに障がいが高くても、一人の人格として尊重される存在であり、その世界は多様性に満ちている」という趣旨の講演がなされ、会場は一気にボルテージを上げていきました。それに続き「地域生活・福祉」「学校教育」「医療」の3つの視点から、それぞれに抱えている医療的ケアの課題を浮き彫りにし、解決点を探ろうというシンポジウムが行なわれました。各セッションとも活発な意見交流が行なわれ、未だ結論は出ていないけれども、当事者を主体として考えていくときに、医療的ケアはその方々を支えるための手段の一つであり、決して医療的ケアが必要と言うことで特別視したり、集団から排除されることはあってはならないという空気が充満していました。

シンポジウムの締めくくりは「医療的ケア京都宣言」を読み上げ、会場全体から沸き起こる拍手で持ってこれを採択し、各自が各自の現場で、ま

た各自が関わる自治体へ届けていこうと誓いあいました。

二日目の実践セミナーは、「呼吸の仕組み」「摂食障がいへの対応」「楽に呼吸し楽に食べるためのポジショニング」の講演があり、とても分かりやすく、次の日から実践に生かせるものもたくさん得られたと思います。セミナーの「売り」である実技研修では、全国から集まってきた「医療的ケア人形 まあちゃん」14人の協力で、医療的ケア初体験の方でも安心して実技研修を行なうことができました。感謝、感謝です。

初日のシンポジウムの参加者は700人、実技講座は300人というかつてない規模でのセミナーでしたが、これが実現できたのも貴重な利用日をお休みさせていただくことにご了承をいただいた、愛隣デイ・シサムをご利用の皆さんの方々のご協力があったからです。あらためて感謝を申し上げたいと思います。

医療的ケアが市民権を得るのは、まだ課題が山積みです。厚生労働省は現在、特別養護老人ホームにおける「医療職と介護職の協働による医療的ケアの実施」について議論していますが、縦割り行政の最たるもので「障がい者のことは念頭にない」としています。はらわた煮えくり返る思いであります。まだまだ私たちの実践が国にまで届いていないということを痛感します。私たちは今「発信」が求められていると強く感じています。一方京都市は、医療的ケアの非医療職による実施に前向きな検討を始めています。京都市には私たちの声は確実に届いている。でも京都市としても国の判断に逆らってまでも…とは行かない状況にあるからこそ、私たちの実践と考え方を国にしっかりと届けることが必要なのだと改めて心に誓うのでした。(篠原)

医療的ケアネットワーク全国シンポジウム 京都宣言(案)

紙面の都合上前文のみを掲載させていただきます。宣言文は医療的ケアネットワーク京都HP(<http://www.mcnet.or.jp>)を御覧ください。

前文

退院の喜びとともに家庭や施設で行うべきケアを託された本人や家族、そして施設職員は、いま社会からの支援の少なさという大きな壁の前で立ちすくんでいます。管を通しての栄養摂取、吸引器利用での痰の吸引、酸素ボンベや人工呼吸器の利用。これら医療的ケアとよばれる行為は、退院時に家庭や施設でもできる行為として教えられたものですが、事前に家族以外のものがケアを行えるか否かについての議論が十分に行われてきませんでした。

教育の分野では1980年代後半からいくつかの教育現場で教員らによる実践が始まり、二十余年をかけた2005年に文部科学省による「盲・聾・養護学校における医療的ケア実施体制整備事業」が生まれ、一つの結実を見ました。しかし、事業が特別支援学校に限定した名称となっているため、通常学校・学級などで医療的ケアの実施がなかなか進んでいません。

一方福祉の分野では、在宅で人工呼吸器を使用しながら人生を送られている患者さんらの働きかけにより、2004年に「家族以外のものでも、たんの吸引行為が実施可能である」という国の判断が出されましたが、さまざまな理由から、一部の志の高い事業者のみによってケアが行われているに過ぎません。ま

た、通知の名称に「在宅における」とあるため、通所施設、入所施設、保育所など、福祉の分野では医療的ケアへの取り組みが躊躇されています。

しかも、通知で明記されている医療的ケアの範囲が、現在、在宅療養をしている人と家族に託されたケアの一部でしかないために、自宅以外の場所や吸引以外のケアを必要としている人が、社会的応援をほとんど得られない状態がつづいています。さらに、これらのケアに対する訪問診療、訪問看護といった医療支援は、全国どの地域でも不足しているという状況です。

NPO法人医療的ケアネットワーク主催の本シンポジウムは、いま医療的ケアに取り組む際に何が壁になっているのかを明らかにし、未来にむかって何をすべきかを議論するために、医療的ケアに関する活動をつづけている「NPO法人地域ケアさぼーと研究所」および「医療的ケアおーぷんねつとわーく*神奈川」の協賛を得て企画されました。

今年9月に医療的ケアと自立を考えるシンポジウム実行委員会主催の『輝くいのち、誰もが「普通」に生きられるように』において、バクバクの会・編集長である平本歩さんの述べた「どんな生き方をして、どんな生活をしていくかは、自分で決めたい、その支援をしてほしい」という主張に、真摯に向き合い、答えを出すことがいま正に求められています。

『済州4・3セミナーに参加して』

この度、アジア国際夏期学校とのご縁を頂き、韓国は済州島での“済州4・3事件”をたどるセミナー旅行に参加しました。

太平洋戦争終了後、日本の植民地支配より解放されて間もない南朝鮮(当時)。朝鮮半島の南北分断に反対する人たちが済州島に多く集っているとして、南朝鮮を管理するアメリカ軍政を後ろ楯とした後の韓国政府が、軍隊や青年テロ組織を済州島に送り込みました。そして1948年4月3日を基点として、反政府勢力はおろか、よく事情を知らない、また何の罪も無い済州島民までも“赤”(パルゲンイ)と決めつけて無差別殺戮を繰り返した“済州4・3事件”

近年、韓国政府が過ちを認め謝罪するまで、この事件は人々の口の端に登ることも許されず、国家によって公表が禁じられて来ました。

セミナーでは、現地に設けられた『済州4・3研究所』の金昌厚先生に案内をして頂き、事件の遺体発掘現場や大量殺戮が行われた各所をめぐり、また日本の植民地時代に旧日本軍が作った地下基地などを保存している所も見えて来ました。

現在は広いじゃがいも畑となっているアルトウル飛行場跡地には、旧日本軍の戦闘機格納庫がそのまま残してありました。他にも過去の惨劇を後世に語り伝えていくための思いが、抗日記念館や4・3平和公園、更に現地の人々の心に刻み込まれていました。

侵略した国の子孫として感じさせられたことの一つは、侵略を受けた側が自分たちの味わった苦しみを後世に語り伝えることが、どれだけ精神的な体力を要するのだろうか？ということでした。自分が本当に辛い目にあったことを早く忘れたと思うのも人間です。その中で、過去の苦難と正面から向き合いつつ平和を願うかの国の姿勢に比して、わが国の過去の過ちについての議論は一体どの程度か？と思わされました。また歴史の流れを大きく眺めた際、4・3事件の数ある要因の中に、日本が植民地時代に残した禍根もあると認めざるを得ませんでした。

ただ、今書いたことを忘れず、かの国の人たちに歩みよって行けば、お互いを本当に理解しあえるということが、金先生や現地で出会った人たちとの交流を通して直に体験することができた。これが今回の旅で得た最大の収穫でした。

最後に車イスの障害者として旅に参加したことから。セミナーに参加された皆さんに介護をして頂いての道中でした。観光地にはスロープや車イス用のトイレが割合に設置されていましたが、一般の飲食店などには大概、1～2段のステップがあり、何人かの手助けを得ないと入れないことが多かったです。ただ、私のように介助の必要な人間がその場に在る状況への反応や対応は、こちらとは一味違ったものがありました。

それを具体的に書けない紙面の少なさを惜しみつつ、今回はここまでといたします。最後までありがとうございました。(八坂屋 おけら)

- 12/13-14 医療的ケア実践セミナー in 京都
- 12/20 デイケア・シザムクリスマス会 プレゼントだ☆→
- 12/23 『遊隣』クリスマス会 『遊隣』戦隊サンタレンジャー参上!



ーハンパレバンドの皆さん
ありがとうございました!



2008/12-2009/3
行事報告

- 12/26 デイサービス忘年会 菊地さん特製お刺身盛り合わせ&鍋! ↓
- 1/28 京都ブロック会議
- 2/1 アジア国際夏期学校 済州島セミナー事前学習会 「済州4・3」 文京洙氏講演
- 2/16-19 アジア国際夏期学校 済州島セミナー



聖光会生野センターの呉光現さんにコーディネートしていただき、済州島四・三事件について学びました。日本の植民地支配の爪痕が四・三事件にも大きく残っていることに気づかされたセミナーでした。


2/28・3/1 介護職のための医療的ケア研修 京都市と京都市から委託を受けた NPO 法人医療的ケアネットとが主催する研修会が行われました。障害保健福祉課在宅係の係長と担当職員の方も、熱心に受講されていました。その姿勢に脱帽です!

- 3/10 京都ブロック会議
- 3/25-26 社会福祉法人イエス団 新任職員研修会
- 3/30-31 年度末研修

柏木正行さんの
魂に触れる ⑧

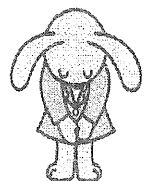
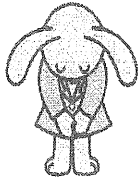
～夕食～
今晚のおかず何にしよ
特に食いたいもんあらへんけど
食わんと腹へるし
栄養も考えなあかんし
ホンマに氣使うぜ
今晚何食うか教えたるか
子持のイカの煮付けと鮭の切身や
後は冷蔵庫にあるもんで済ますつもりや
ああ今日も終りや

一詩集 路 より
柏木正行著 明石書店



ご支援ありがとうございました

今後ともよろしくお願い致します



今年度も多くの皆様に支えられて活動を続けていくことができました。
感謝を込めてお名前を載せさせていただきます。

愛隣館研修センター献金者

《月定会員》

明石邦子, 天野絵里, 飯田二美, 内海奈穂, 後宮昭子, 大原尚美, 奥間早登子, 奥田安子, 岡部清, 勝浦ゆたか, 神戸萌子, 金山秋義, 寒竹美穂子, 金子博・町子, 河原崎美恵子, 君村千代子, 岸佳津子, 木村美由紀, 木村耕, 北園由希子, 高下恭子, 五藤薫子, 酒井由喜, 塩谷幸代, 高垣縁, 刀根史恵, 中村直子, 成瀬正代, 西岡景子, 西村美枝子, 西川友香, 林栄子, 菱田万里子, 引原勝美, 福田尚子, 堀尾勝世, 松井知恵, 松川愛, 壬生輝子, 三谷昭子, 村川知子, 村上頌子, 恵ヒロ子, 毛利元美, 森弘, 安那芙美子, 安野喜仁, 優美, 山崎希充子, 家形日出, 藪内みのり, 吉村麻弥香

(51名 518,000円)

《指定献金

(夏期特別、クリスマス、年会費)》

郵便振替(個人): 石川康司②, 今井晋・美令, 池添素, 上野政治②, 小国里恵, 小川佐和子, 川尻良雄②, 加治木政子②, 賀川督明, 川中大輔, 川田よしみ, 川西大祐, 川上盾, 喜多明子②, 北野井一恵, 北野井曉・智恵子②, 木村拓貴, 黒田絢②, 栗原宏尚、記入に際しましては万全を期しておりますが万が一記載漏れがありましたらご一報ください。

介・みな子, 小柳玲子②, 近藤孝子, 後藤一志②, 佐原良子, 清水元介②, 杉原輝明, 高津陽子②, 田中工務店田中俊介②, 武澤信夫, 高橋秀幸②, 竹下佳貴②, 田村早千枝②, 竹内富久恵, 高柳富夫, ダレンダモンテ, 出上俊一, 刀根史恵②, 富永裕子②, 土井淳平, 中村純孝, 永島正人②, 中西静子, 中村聡子, 中田ひとみ, 中島淳, 長尾文雄, 西田和可子②, 丹羽克吉, 野島正光・共子②, 浜口雄二②, 原田恵美, 朴実・清子, 藤田早紀②, 富士朴定夫②, 福井達雨, 舟橋登, 堀尾とみ代②, 本田桃子, 松岡匡宏②, 丸山澄夫②, 松原智之, 松井俊, 増田征治, 増田みち子, まゆみただし, 前島宗甫, 松井俊, 宮本真希子②, 三浦清邦, 村田稜太, 守本孝造②, 森田和子, 山形幹夫②, 山口政紀②, 柳町裕子, 横山明子

その他寄附金(個人): 赤保正典②, 秋山健②, 猪口敬幸②, 井沼成子, 後宮昭子, 織田雪江, 柿本真介②, 北野光晴②, 北野井一恵, 君村千代子, 木安透, 栗原俊博, 清水充浩②, 下野環, 田中仰・涼子, 玉井, 土田佳奈, 富増・児, 中井二美③, 中村純孝, 成瀬正代, 野村(将棋), 林川忠男③, 林栄子, 畠田知佳, 林川信夫・小西光恵, 平井啓之②, 藤田三郎②, 法貴星来, 松岡聡子, 溝口修造・智之②, 村田明隆, 恵ヒロ子②, 森弘③, 森田学, 安野義仁・優美②, 匿名

郎②, 法貴星来, 松岡聡子, 溝口修造・智之②, 村田明隆, 恵ヒロ子②, 森弘③, 森田学, 安野義仁・優美②, 匿名

(162口 1,275,828円)

郵便振替(団体): 愛之園保育園職員一同, 芦屋岩園教会, 石橋教会, 一麦保育園, 市川三本松教会, 軽井沢分教会, 京都YWCA, 希望ヶ丘教会, 錦林教会, 京都丸太町教会, 坂出育愛館, 坂出育愛館(『遊隣』), 大阪四貫島教会, 須磨教会, 世光教会, 膳所教会, 丹波新生教会, 所沢教会, 同志社香里中学校・高等学校, 同志社中学校, 同志社女子高等学校, 同志社高等学校宗教部, 新島学園中学校・高等学校, のぞみ保育園, 野方町教会, 光の子保育園 PTA, 二葉幼稚園, ぶどうの木保育園②, 平安教会, みどりの保育園, 紫野教会教会学校, 友愛幼児園, 洛陽教会, 翠ヶ丘教会

その他寄附金(団体): あかとおんぼ(小中謙吾, 宮坂亜矢子, 寺田知沙, 福田竜一), 伊藤・珠算教室, NAの会, 空の鳥会, コミュニティーバスを走らせる会, 新婦人の会, 世光保育園, 中国残留孤児を支援し交流する会, ほっとハウス

(43口 419,901円)

2009年3月10日現在 敬称略

☆お知らせ☆
▽愛隣館研修センターは、3月26日～31日まで休館日とさせていただきます。
★編集後記★
▽継続は力なり▽様々な分野の方からエッセンスを戴き▽センターニュースを発行し続けたいと思えます▽ご協力よろしくお願ひします▽ご意見、ご感想をお待ちしております(さ)
▽センターニュースのご愛読ありがとうございます▽ニュース発行後に寄せていただいたご意見、ご感想に励まされています▽毎回のよう FAXで感想を送ってください方もおられ感謝です▽今年度の夏期献金、クリスマス献金の通信欄に記載されたコメントをご紹介させていただきます▽ご紹介させていただき面白く読ませていただきました。私は缶コーヒは嫌いで、ブラックでもおいしく飲んでます(徳島県Kさん)▽すべての人が大切にされる社会をめざしてなんとしても障害者自立支援法の撤廃を！(京都府Mさん)▽大変な時代です。こんな時こそ一人ひとりが大切にする歩みがたためる大切だと思います。ふり落とされたいよう歩んでいきたいとおもいます(佐渡市Mさん)